

感染症ニュース

No.255 2026/08/28

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

新型コロナウイルス感染症出現当初に比べると症状が軽くなり、受診しないまま行動し続ける方が多くなったため、流行が拡大しやすくなっている。それでも高齢者は重症化しやすいので、今後も高齢者の重症化予防のためには、新しい流行株に対応したワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続が必要で、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着け、よく換気することが大切である。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、コロナ明けから高水準で流行が続いている。再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても10日前後服用を続けないと腎炎などの合併症を併発する。

手足口病

夏に多い感染症で、富山県内で拡大している。水疱が、手のひらや足の裏、口の中や口の周り、肘、膝、臀部にできる。病原体となるウイルスは何種類もある。熱が出たり、口の中の痛みのために飲食ができなくなったりして、脱水症になりやすい。時に、髄膜炎や脳炎を合併することもある。くしゃみや唾液から感染するだけでなく、患者の便中にも1か月程ウイルスが存在するため、徹底した手洗いが必要である。ワクチンや特効薬は無い。

RSウイルス感染症

夏の終わりから春先まで流行が続く。夜間に激しくなる乾いた咳が特徴で、生後数か月までの乳児が感染すると重症となり、呼吸困難に陥って死に至ることもある。高齢者も感染すると重症化しやすい。特効薬は無いが、今年4月から、母子免疫ワクチンとして、妊娠28週～36週までの妊婦に対する定期接種が始まっている。妊婦が接種することにより、母体内で作られた抗体が胎盤を通して胎児に移行し、出生直後からのRSウイルスに対する予防効果が期待されるものである。

<今後、流行が懸念される感染症>

インフルエンザ